Faculty Development

日本大学 FD NEWSLETTER

WINTER 2024 VOL 25



Contents

特集 Canvas LMS全学導入とその活用 2
1 Canvas LMS の全学導入の背景
2 Canvas LMS で進化する授業運営や学生の学修管理

連載 部科校における学習支援等の事例紹介 4
第17回 [危機管理学部]危機管理学的探究の実践

連載 授業改善のためのティーチングティップスの収集と情報提供
第18回 [理工学部]「Best Teaching Awards」制度の導入

COVER PHOTO

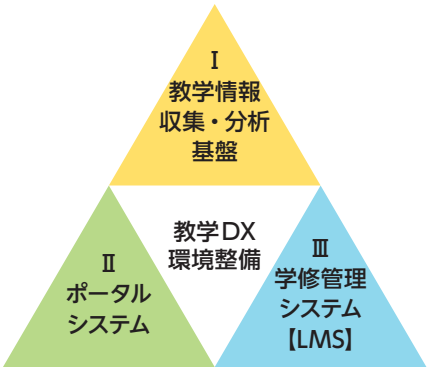
工学部土木工学科3年生の「材料実験」の様子。この日は「アスファルト実習」でキャンパス敷地内でアスファルト舗装を行っています。工学部はキャンパス全域が研究実験フィールドです。
(担当教員 子田康弘教授,前島拓専任講師)

特集 Canvas LMS 全学導入とその活用

2024 年 10 月，本学では，全学で学修管理システム Canvas LMS を導入し，いくつかの学部では活用が始まっています。個別最適な学びと教育の質向上の実現に向けて LMS を活用し，データ駆動型教育を加速させていきます。

1 Canvas LMS の全学導入の背景

教学 DX 戦略委員会は，教学データを収集・分析する基盤システム（D-CAS）を構築し，データ駆動型教育を進めています。それをさらに加速すべく，全学で Canvas LMS を導入しました。これにより，学生は全学部で共通の授業システムを利用できるようになり，教員は多様な機能を活用して授業の質向上と事務作業の効率化を図ることができます。また，D-CAS との連携により，部科校内で埋もれていた学生の学修情報を，大学全体の資産として管理・分析し，教育環境の改善に繋げていきます。将来的にはポータルシステムを整備し，学生自身で学修履歴や活動記録を活用できるように計画を進めています。



Canvas LMS とは？

Canvas LMS は，Instructure 社が開発した信頼性が高く安全で高品質の Web ベースの学修管理システム (LMS) です。誰でも直感的な操作が可能で，大規模な利用や複数キャンパスでも安定して稼働し，学内の既存システムや外部アプリケーションと連携できることが特徴です。米国の高等教育機関で多く利用されている LMS であり，日本でも東京大学や一橋大学，慶應義塾大学，名古屋大学などで導入されています。

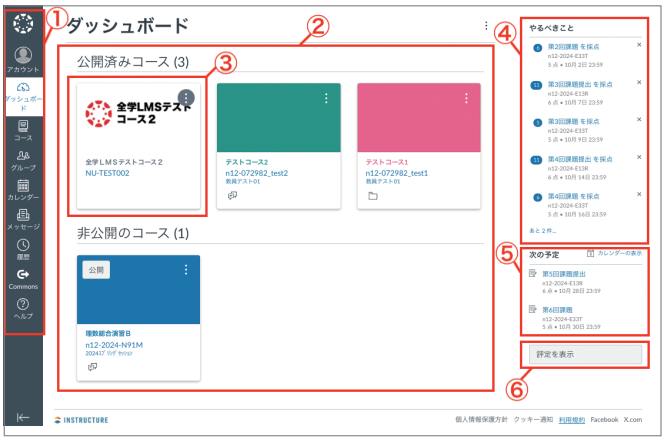
2 Canvas LMS で進化する授業運営や学生の学修管理

Canvas LMS では，資料の提示・配布，課題・小テスト，ルーブリック評価，高速採点，グループ学習などの多様な機能が提供されていることに加え，LTI 連携※により，剽窃チェックをはじめとする外部ツールを LMS 上で一体的に活用できます。学生の学修活動を詳細に記録・可視化し，高度な成績分析を行うことで，個別最適な指導と授業改善に役立ちます。

1. ダッシュボード

教員が Canvas にログインすると，操作の起点となるダッシュボード画面が表示されます。授業コースの一覧や，予定・タスクなどの最新情報を確認でき，次に何をすべきか一目でわかります。

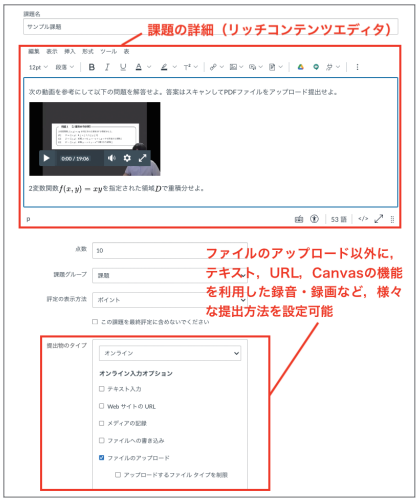
❶グローバルナビゲーション：Canvas LMS のどこを見ていても表示され，メニューアイコンをクリックすればいつでも該当画面に戻ることができます。
❷コース一覧：担当する授業コースのうち，コースメニューで選択したコースがカード表示されます。
❸コースカード：授業コース名・コード等とともに，アナウンスメントやファイルのアイコンが表示されます。
❹やるべきこと：採点が必要な課題等のリストが表示されます。
❺次の予定：カレンダーの情報を参照し 1 週間以内の予定を表示。
❻評定を表示：担当している授業コースの評定を表示します。

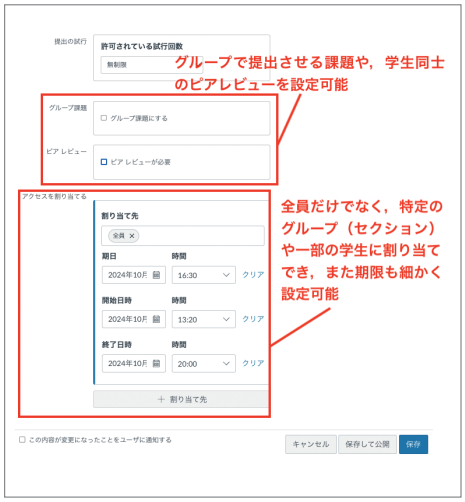


※ LTI 連携は，LMS などの学習用のプラットフォームを外部アプリケーションと連携させるための技術標準規格です。外部アプリケーションがプラットフォームの内部に置かれたような形で学習者に提供でき，LMS の機能拡張を図れます。

2. 課題の作成

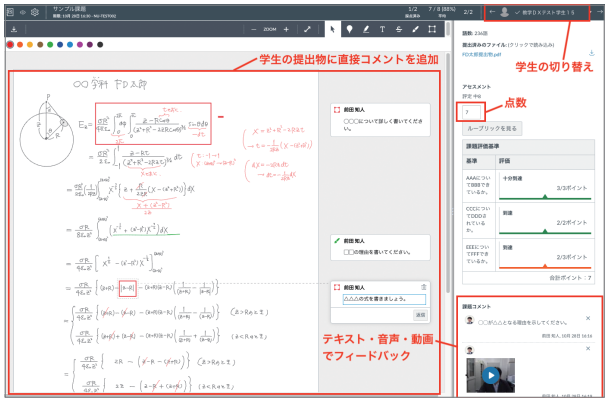
Canvas LMS のリッチコンテンツエディタを利用し，テキスト，画像・数式，音声・動画等，様々なメディアを利用して課題を作成することができます。課題の提出方法は一般的なファイル形式でのアップロードに加え，外部 LTI アプリ（Google Drive や剽窃チェック等）と連携可能です。またグループで取り組む課題や，学生同士による課題のピアレビュー評価も設定可能です。課題の他にも，様々な問題形式の小テストの作成も簡単です。問題形式によっては自動採点をして，評価する機能もあります。





3. 課題の採点

Canvas LMS の採点･評価機能である Speed Grader（高速採点機能）では，学生の提出物を確認しながら，様々な形式でフィードバックするとともに，ルーブリックを参照して効率よく評価を行うことができます。評価は評定表で一元管理でき，学生の提出状況や評定を一覧で確認し，課題グループごとに重みをつけて合計評価を算出することができます。





Canvas LMS の活用を通じて，実現する教学改革



日本大学　短期大学部　准教授
教学 DX 戦略委員会委員　　前田知人

全学導入に先立ち，理工学部・短期大学部（船橋校舎）では Canvas LMS を活用しています。教材や課題の配信，小テストの採点，課題の未提出者へのフォローが容易にできるようになり，事務業務の負担が大幅に軽減しました。そのため，学生の学習状況の分析や習熟度に応じた課題の作成などに時間を費やせるようになり，オーダーメイド型教育の実現につながっています。全学での活用を進め，教学改革を推進していきます。

教員のメリット

1，課題の提示が簡単。特に動画教材の提示が容易になった。
2，小テストの自動採点機能があり，事務業務を軽減できる。
3，ルーブリックに基づく評価が可能で，FD に役立つ。
4，学生の学習状況を分析でき，個別の指導に生かせる。

学生のメリット

1，どの学部でも同一の LMS が利用できる。
2，授業の情報が集約され，予習・復習がしやすい。
3，課題の提出日など日々やるべきことがわかりやすい。
4，小テストやレポートなどの課題の提出が簡単。
5，課題の評価結果や成績をいつでも確認できる。

連載 部科校における学習支援等の事例紹介

第17回［危機管理学部］危機管理学的探究の実践

高等学校新学習指導要領では，「総合的な学習の時間」は「総合的な探究の時間」となり，探究活動が多くの現場で取り入れられています。一方，大学入学直後の1年次生にとって，在学中の学修活動の詳細をイメージすることは困難でしょう。特に，新しい学問である「危機管理学」については，社会的認知が不十分な中で，就職活動の面接で危機管理学について問われても満足な回答ができない学生も少なくありません。

そこで，令和６年度の初年次教育科目では，「危機管理学的探究」と題したグループワークを実践しました。高等学校の探究活動は，グループで「調べ学習」を行うことが多く，基本的にその流れに従います。危機管理学に関する大テーマを示したうえで，希望テーマごとにグループを編成し，具体的な探究テーマを決めて，分担し調査を進め探究の結果をまとめました。その後，10月中旬の学園祭で18のクラス代表によるポスター発表形式の「危機管理学的探究発表会」（写真）を実施しました。発表会では，1年次生の投票に基づいて，最優秀賞等を選び，学園祭の中で表彰しました。

表彰対象となったグループを中心に，意欲的に探究活動に取り組む様子も多数見られました。これらの探究活動が，ゼミナールの研究活動，そして卒業論文（研究）へと発展し，危機管理学の理解が進むことを期待しています。

（危機管理学部准教授　山添 謙）



連載 授業改善のための ティーチングティップスの収集と情報提供

第18回［理工学部］「Best Teaching Awards」制度を導入

理工学部では，令和６年度より学部 FD 活動の一環として，学部生に対する教育の質のさらなる向上を目指し，教育貢献が著しい専任教員を顕彰する「Best Teaching Awards」制度を始めました。

この制度は，令和５年度より学部設置の全科目について「授業改善のためのアンケート」を実施していることから，その結果を利用して学生から高い評価を得ている教員を表彰することになりました。「Best Teaching Awards」の制定には，理工学系他大学や他学部の制度を参考に学部 FD 委員会で約１年をかけて慎重に検討がなされましたが，その際に，いくつかの条件についても検討されました。学部設置科目の中で，卒業研究やゼミナールのような小人数で行われ回答者が特定されるような科目や受講者数が学科定員の25％未満の科目，回答率が一定未満の科目のアンケート結果を除外するなどの条件を設けました。

理工学部は２学期制のため，前，後学期それぞれの学期においてアンケート結果の評価が高い教員10名程度を選出して「Teaching Awards」として表彰を行い，また年間を通して上位３名の教員を選出して「Best Teaching Awards」として表彰します。

なお，今年度前学期分の「Teaching Awards」表彰者については，現在アンケート結果の精査が行われており 12 月の教授会において発表される予定です。

（理工学部教授　峯岸邦夫）

※本ニューズレターに記載した資格・学年等は，令和6（2024）年12月現在のものです。

日本大学 FD NEWSLETTER 第25号
発　行　日：令和6（2024）年12月1日〔年2回発行〕
発　行　者：日本大学FD推進センター センター長 ソコロワ山下 聖美
〒102-8275 東京都千代田区九段南4-8-24　電話:03-5275-8314 FAX:03-5275-8315
e-mail:adm.aca.eps@nihon-u.ac.jp　https://www.nihon-u.ac.jp/fd-center/
所 管 部 署：日本大学 本部 学務部学務課　　企画・編集：日本大学全学FD委員会戦略ワーキンググループ

「日本大学 FD NEWSLETTER」に関する御意見や御感想などがありましたら，学務部学務課（adm.aca.eps@nihon-u.ac.jp）へお寄せください。

本ニューズレターに掲載した文章，写真等の無断転載・複製を禁じます。　Copyright(C)Nihon University 2024 All Rights Reserved.